

# 新職域の定着前進

## 建設ディレクター協会 ククター協会

建設ディレクター協会は17日、建設ディレクター報告会を東京都内で開いた。建設ディレクター導入企業などが、実践報告として取り組みや効果を発表した。冒頭のあいさつで新井恭子理事長は「写真は、現場技術者の書類作成業務にかかる負担などを軽減する、建設ディレクターという新たな職域の定着が進んでい

る。なくてはならない建設業に寄り添い、少しでも役に立ちたい」と話した。

報告会では、ヤマグチ（鹿児島県）、鹿児島県土木部管理課、鹿児島県建設業協会が「地域でつくる、三位一体の取り組み」として実践報告を行った。ヤマグチは、建設ディレクターの採用による成果として、書類作成業務が効率化し、月の平均



残業時間が約50時間から約8時間に減ったことを挙げた。建設業協会が学校に対して建設ディレクターの紹介を行ったことや、鹿児島県による定着促進のための助成金支給などの三位一体の取り組みが導入促進につながったとまとめた。

国土交通省の森下博之参事官は講演で「建設ディレクターの浸透と同時にICT施工が普及する可能性がある。国としても生産年齢人口の減少に対応すべく、施工・データ連携・施工管理のオートメーション化を進めていく」と話した。